



徳成寺 寺はかわら版 第198号 2023年6月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

先月、ふるさと高松市出身の元プロ野球選手の中西太さんが
お亡くなりになられたそうです。中西さんは、高松一高出身で
豪快なスイングが魅力の強打者であり「怪童」と呼ばれました。

その中西さんが生前モットーにしていたのが「何苦楚（なにくそ）」

でした。中西氏の義父であり名将と呼ばれた三原脩監督の「何苦楚 日々
新也（なにくそ ひびあらたなり）」が語源だそうです。何事も苦しい経験が

自分の成長の礎（いしづえ）になるという意味だそうです。何苦楚の言葉で励ました

後輩のプロ野球選手は枚挙にいとまがありません。逆境をバネにして成長する力強さを

何苦楚に感じます。郷土の大先輩がこの世を去り、さみしい限りですが、人は死んだら
終りではありません。その方の生き様に学ぶことはこれからなのです。

一筆行責任者
住職
大山健児
坊守
大山ひびみ



大山超世の耳を澄ませば

お世話になっております、副住職です。

先月誕生日を迎え、法事の際に使っている音木(おんぎ)を新しいものに交換しました。
音木とは年忌法事や仏教行事等、2人以上のお坊さんが出仕をする際、お経のタイミン
グを合わせるために打つ拍子木です。今まで使っていた音木は先代が使っていたおさが
りと言うことで、劣化して音が出にくくなっていました。その様子を見かねた仲間のお
坊さんに買い替えるように諭されたので新調しました。

今までの物と比べてサイズが大きくなったので、お経をめくるのが少し大変になりま
した。しかし、軽い力で大きな音が出るようになりこんなに違うのかと驚きました。写
真はこれまで使っていたものと、新しくしたものです。形と大きさが変わったのが見て
取れるかと思います。大谷派の正式な形の音木は四角いブロックではなく、斜めになっ
ている事が特徴だそうです。自坊に戻り6年になりますが、まだまだ知らない事ばか
りだなと思った次第でした。

